

# 内閣府の支援をきっかけに町からの提案につながった事例

○ 平成30年提案募集においては、内閣府が行った個別意見交換や研修・説明会をきっかけに、初めて提案に至った事例が多くみられた。今後は、職員に限られた町村においても、こうした支援を有効に活用することで、地域の課題を発見し、提案に結び付けることができることをさらに発信していく必要がある。

## ①内閣府の個別意見交換を活用し、三重県内の市町村から初めての提案に（菰野町・三重県）

### 取組概要

- 菰野町では、既存施設を撤去してから、新たに建築物を設置するまでに長期間を要する場合には、自然公園法の規制が適用されることが支障となり、町内の温泉街にある廃屋等の撤去が進まない課題に直面。
- 内閣府との個別意見交換で、解決方法について助言を受け、その後も複数回にわたり電話での意見交換を行い、三重県内の市町村から初めての提案につながった。



温泉街に廃屋が増えており、景観以外にも、衛生・防犯・防災上の様々な支障が生じている。

### 町の担当者の声

- ・ 内閣府の方に現場を見てもらい、その後も親身に相談にのってもらい、困ることなく事前相談、提案をすることができた。

## ②町長研修会をきっかけに、鳥取県内の市町村から初めての提案に（江府町（鳥取県））

### 取組概要

- 江府町では、鳥取県町村会主催の内閣府職員による町村長研修会をきっかけに、町の重要課題解決のために町長のリーダーシップの下で提案を検討。
- 同町が直面する中山間地域の介護現場の実情と介護報酬の現状の乖離等に着目し、鳥取県内の市町村から初めての提案につながった。



中山間地域においては、介護事業者が高齢者の玄関の雪かきなどを行うことから、介護の現場の負担となっている。

### 町長の声

- ・ 中山間地域の実情に、丁寧に耳を傾けていただきました。スピーディーな対応とフォローアップに感謝しています。

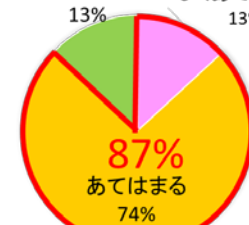
## ③県主催の研修で参加者から出された支障事例がもとになり、町からの提案に（砥部町・愛媛県）

### 取組概要

- 愛媛県庁主催の内閣府職員による研修の演習に、砥部町からも参加。演習で出された支障事例を県庁がとりまとめ、内閣府に簡易相談を実施。
- 簡易相談により提案の種となる案件が選別され、その後、内閣府が同町に電話でのフォローや、支障事例の現地調査などの支援を続け、事前相談、提案につながった。



内閣府職員による研修  
どちらともいえない よくあてはまる



研修に対する満足度

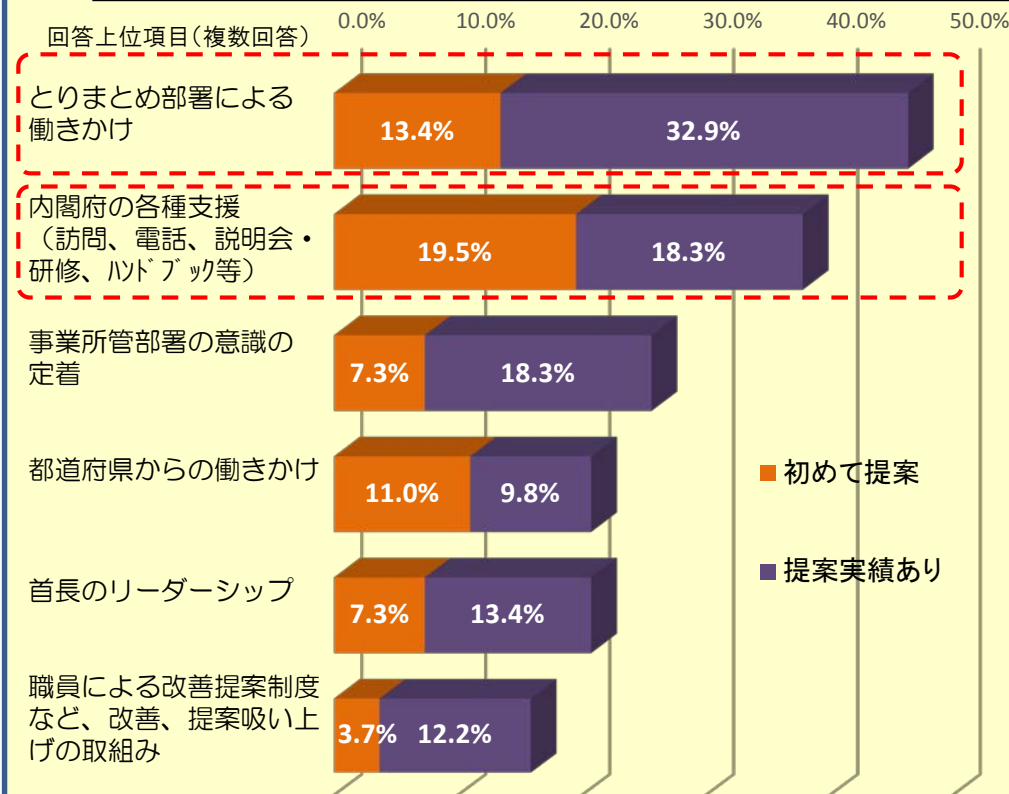
### 県・市の担当者の声

- ・ 提案に至らなかった自治体においても、「改善」を意識して業務に当たりたいとの声もあり、意識改革につながった。（県）
- ・ 丁寧に指導していただき、負担を感じることなく事前相談、提案につなげることができた。（砥部町） 3

# とりまとめ部署の役割や普段の問題意識が提案に重要な要素

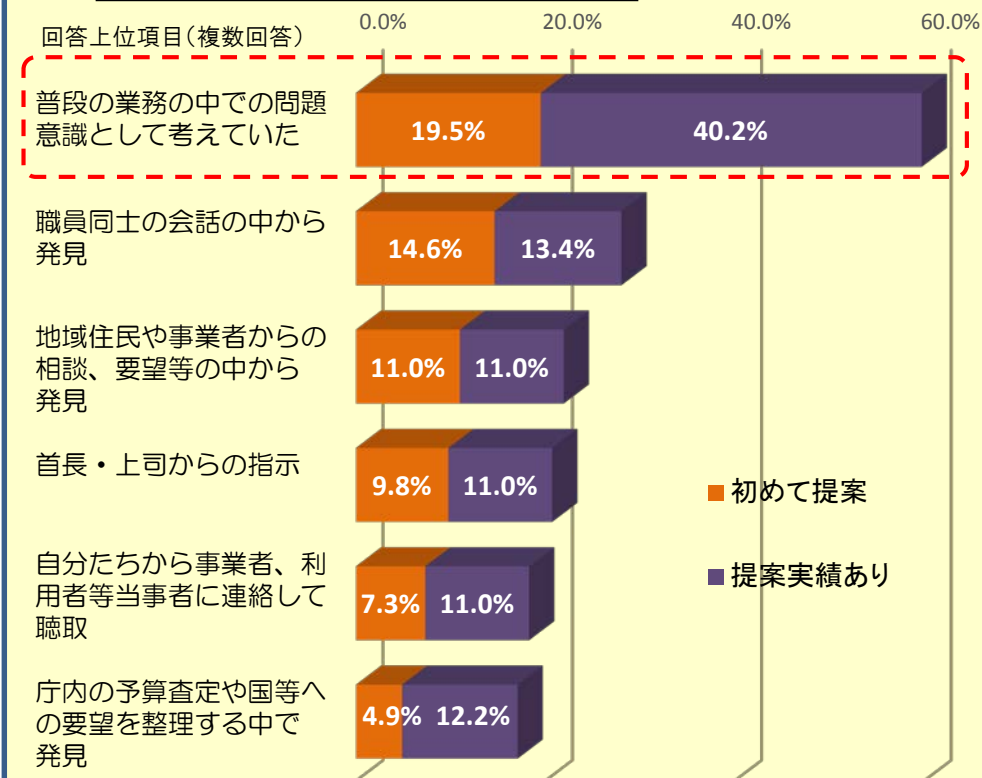
○ 提案に至った市区町村が、事前相談に至ったきっかけや支障事例の把握に関する取組について調査したところ、とりまとめ部署の働きかけや、普段の業務中での問題意識を挙げる回答が多くみられ、日頃から課題発見を意識して組織的に取り組むことの重要性がうかがわれる。また、内閣府の各種支援を挙げる回答も多かった。

## 問1 どのような取組が事前相談の提出に結びついたと考えられるか



自治体におけるとりまとめ部署による働きかけの効果が大きく、内閣府の各種支援や都道府県からの働きかけ、首長のリーダーシップ等の効果もみられる。

## 問2 支障事例をどのようにして発見したか



普段の業務の中で支障事例を発見しているケースが最も多く、職員同士の会話、地域住民や事業者からの相談、首長等からの指示なども端緒となっている。

資料:内閣府地方分権改革推進室調べ

注1:事前相談があった市区町村に対し、平成30年5月～6月実施。対象128市区町村、回答119市区町村(93.0%)。上記は、うち提案に至った82市区町村の回答を集計したものである

注2:問1の項目中、「内閣府の各種支援」については、訪問・電話、説明会・研修、ハンドブック・データベース等の個々の支援を挙げた回答について、重複しないよう、ひとまとめに整理したものである。